

	課題分析	授業改善策
1 年	○語彙の不足により、自分の気持ちを言葉で伝えられない。 ○相手の意見を聞いて、自分の考えを再考する経験が少ない。	・授業や日常生活で語彙を増やす取り組みを行う。（言葉の宝箱を活用） ・話す・聞くの練習を日常的に取り入れていく。（朝の会のスピーチ活動） ・学級会や国語の授業を通して、意見交換の機会を増やす。
2 年	○語彙の不足により、自分の気持ちを言葉で伝えられない。 ○相手の意見を聞いて、自分の考えを再考する経験が少ない。	・授業や日常生活で語彙を増やす取り組みを行う。（言葉の宝箱を活用） ・話す・聞くの練習を日常的に取り入れていく。（朝の会のスピーチ活動） ・学級会や国語の授業を通して、意見交換の機会を増やす。
3 年	○議題について、他者の考えと比べ合いながら、合意形成を図る経験が不足している。 ○自分の考えをもって話し合い活動に参加することに消極的になってしまう。	・自分の考えを事前共有させることで、主体的に学級会に参加できるようにする。 ・個の実態に合わせた役割をもたせることで、当事者意識を高める。 ・ワークシートを工夫することで、他者の意見を受け入れられる思考を促すようにする。 ・児童が折り合いをつけやすいような言葉掛けをする。
4 年	○議題について、他者の考えと比べ合いながら、合意形成を図る経験が不足している。 ○自分の考えをもって話し合い活動に参加することに消極的になってしまう。	・自分の考えを事前共有させることで、主体的に学級会に参加できるようにする。 ・個の実態に合わせた役割をもたせることで、当事者意識を高める。 ・ワークシートを工夫することで、他者の意見を受け入れられる思考を促すようにする。 ・児童が折り合いをつけやすいような言葉掛けをする。
5 年	○自身の考えを論理的な根拠とともに伝える力に課題があり、特定の児童の発言に偏ってしまう。 ○意見対立時に、対話を通して折り合いをつける経験が不足している。	・自分の発言が否定されない安心感をもたせるために、出された意見の比較や整理を可視化して論理的な発言を促す。 ・合意形成を引き出す発問を位置付け、安易な決定に頼らない指導を行う。 ・対話による考えの変化や到達度を振り返る評価を取り入れ、自分たちで生活を良くしていく自治意識と達成感を育む。
6 年	○自身の考えを論理的な根拠とともに伝える力に課題があり、特定の児童の発言に偏ってしまう。 ○意見対立時に、対話を通して折り合いをつける経験が不足している。	・自分の発言が否定されない安心感をもたせるために、出された意見の比較や整理を可視化して論理的な発言を促す。 ・合意形成を引き出す発問を位置付け、安易な決定に頼らない指導を行う。 ・対話による考えの変化や到達度を振り返る評価を取り入れ、自分たちで生活を良くしていく自治意識と達成感を育む。